

赤い羽根共同募金作文・ポスター作品コンクール 2019

作文の部 小学校 最優秀賞



# 支え合いの新しい時代へ

函南小学校 6年 古川玲奈

令和、新しい時代が始まりました。北海道新幹線や国際便の整備が進み、多くの外国人旅行者や日本人観光客がここ青森県にも訪れています。また来年は、東京オリンピックが開催され、新しい日本の形が出来始めようとしています。

先日選挙で、ALSを患う2人が国会議員に当選しました。ALSとは運動神経細胞が侵される難病の一つで、日本に約1万人の患者さんがいるそうです。そのふたりの国会議員が特殊な車椅子に乗り、隣には介助の方が付き添い、国会に初登院したというニュースを見て、私は驚くとともに、これから国会で頑張ろうとする2人のたくましさにも勇気をもらいました。体が不自由でも、しっかりと自分の考えを持ち、自分の口からはその考えや思いを伝えられなくても、助けてくれる人がいる素晴らしさ。介助の方も、笑顔で寄り添い、その2人が懸命に伝えようとしていることをしっかりと感じ取り、丁寧に伝えていました。この2人の国会議員の誕生は、日本の未来をより良く変えてくれるのではないかと、私は嬉しく感じています。

私の父の会社でも、体が不自由な方が何人かおり、スロープやエレベーター、多目的トイレなどを利用し、みんなと一緒に働くことができているそうです。周りの環境を整えることに加えて、周りの社員一人ひとりが思いやりの気持ちで行動することが、とても大事なんだよ、と父が私に教えてくれました。みんなが支え、支えられる「安心して暮らせる地域社会」が少しずつできているのだと、私は思います。

私の学校生活の中でも、いろいろな仕組みがあり、役割があり、責任があります。転校してきた私は、時々、前の学校との違いに戸惑うこともありましたが、でも、友達や先生の「大丈夫だよ」「困った時は相談してね」の言葉に支えられ、頑張ることができました。安心できる環境と周りの人たちの温かい支えに感謝しています。

助けを求めている人みんなに、そっと差しのべられる、『優しくて温かい手のような役割』を赤い羽根共同募金が支えてくれているのだと思います。

募金は少ない金額でもみんなの気持ちが募ることで大きくなり、小さな悩みや不安も解決でき、地域の良い仕組みを作るのです。そして何より、募金をすることで、そこに暮らす人たちが、お互いに助け合うということに大事にし、自分たちの環境を良くしようとする心が育まれるのだと思います。

日本では、少子高齢化や地域社会の弱体化、地震や大雨の自然災害など、課題が多いです。だからこそ一人ひとりが協力し、赤い羽根共同募金を支え、みんなが安心して暮らせる環境をこれからも、作り続けなければと思います。